

## 平成28年度 体協ニュース

行事名	板橋区民ハイキング
会場	～紅葉の切込湖・刈込湖～（栃木県 奥日光）
日時	平成28年10月28日（金）
主催	公益財団法人 板橋区体育協会

板橋区グリーンホール前集合・出発 6 時 30 分、参加者 40 名、随員 6 名（+現地補助 1 名）総勢 46 名で予定時間通りバスが出発した。天気は曇りであったが途中から晴れ間も見えて、期待に溢れていた。途中「イロハ坂」を過ぎ中禅寺湖畔にかけてすばらしい紅葉を堪能しながら、奥日光・湯元温泉バス停に 9 時 20 分に到着した。準備体操を終えた班から、カモが泳いでいた源泉である湯ノ平湿原を通り過ぎ、湯元・光徳線歩道入り口から小峠に向かった。光徳牧場まで約 8 km で約 4 時間の探索コースである。

入り口は、標高はおよそ 1500m あり、寒さを感じるくらいであった。はじめは、ゆっくりとしたペースで登り始めた。登山道は、ミズナラ、ブナ林に囲まれ、黄色い葉は見られるものの紅葉はすでに終わった感であった。落ち葉を踏みしめながら、時々遠くから鹿の鳴き声が聞こえた。小峠で少休止、水分補給や軽食を摂ったりし、結構きつい登山道（台風の影響を受けたのか、大木が多数なぎ倒されていた）を汗をかきながら登ること 1 時間、11 時 35 分に「刈込湖」に到着した。静かな湖畔で昼食をとり参加者皆さんで記念写真を撮ったり、景色を堪能したり過ごした。この湖は、三岳（みつがだけ・1945m）の噴火による深さ 15m～18m のせき止湖で、流出口のない閉鎖型のものである。かつて、日光に住んでいた毒蛇を勝道上人がこの湖の中に狩り込めた（刈込湖の名の由来）という伝説のある、神秘的な処でもあるのだ。今年水位が例年より低く「切込湖」と境が露出していた。この辺りは標高 1610m 程で、亜高山帯植物のコメツガ、ダケカンバなど原生林に囲まれている。12 時に出発したが、遠くに見える、於呂俱羅山（おろぐらやま・2020m）方面から怪しいガスが立ち込めてきたともに雨に変わった。雨具を装着し「切込湖」へ向かった。かなり激しい雨なので「切込湖」はわき目で見ながら通過した。さらに進むと、大きな窪地の地形が目に入った。潤沼（かれぬま）で、案内板の説明によると、『すり鉢状の地形のため、普通とは逆に、山の下の方から色づき始める。これは、冷気が低いところにたまり、底の方の温度が低くなるためである』…ところが今回は、残念ながら紅葉はすでに遅かったためか、見られなかった。雨も降っているので見物もそこそこに、急坂を一気に登り山王峠にでた。ここで参加者の 2 名が筋肉痛のため止む無く現地参加の救護車で下山した。このとき優しく付き添って面倒を見ていただいた参加者の O さんには毎回サポートしていただきこの紙面をお借りして感謝申し上げます。ここからは光徳牧場に向かって約 1.9km の急な木段の段差のある下りのみである。あたりは静まり返り、ミズナラの純林やカラマツ林を抜けて、大満足で光徳牧場に着いたのは午後 2 時 45 分だった。今回の行程は、参加者の協力を得て、予定通りの時間で遂行することができた。また、登山の初めから下山までの間、めずらしく一人もの他のハイカーや団体に合わなかった。（熊にも）

15時に光徳牧場を出発して、日光宇都宮道路・清滝インターチェンジにほど近い、ひっそりとした谷あい立つ市営の温泉施設の「日光和の代温泉（やしおの湯）」に立ち寄り、疲れを癒した。この温泉は、無色透明のとろりとした湯で、アルカリ性単純温泉（アルカリ性低張性低温泉）で肌がつつるになると女性に評判です。料金も格安です。帰路は、日光宇都宮道路、東北自動車道、月末のためか、最後に、渋滞に巻き込まれ、予定時間を1時間ほど、過ぎての午後7時30分、グリーンホール到着となった。でも、参加者の皆様は、「是非、次回も参加したい」「とてもよかった」など大変うれしいお言葉をいただいた。今回も参加者に帰りのバス車内で、アンケートを書いていたいただきましたので、そのまとめた結果は後日、体協のHP等で、報告させていただきます。（文責 下野敏弘）



「刈込湖」で記念撮影



湯元バス停付近で準備体操



湯元・湯ノ平湿原（源泉）





湯元・光徳牧場線歩道入り口



小峠で少休止



刈込湖



雨の中、切込湖から涸沼へ



涸沼から山王峠への急な登り



日光和の代温泉「やしおの湯」